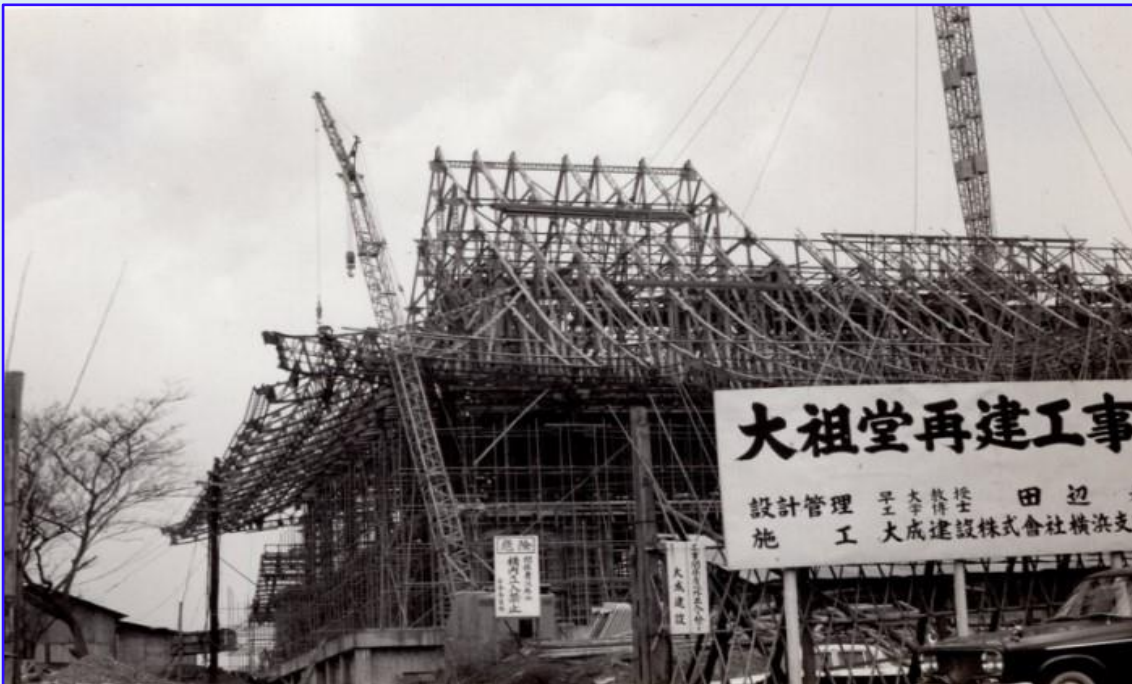


# 總持寺 上棟式



上棟式とは、工事が棟上げ(むねあげ)まで終了したところで執り行う行事のことで、棟上げ(むねあげ)、建前(たてまえ)、建舞(たてまい)とも云います。  
「棟上げ」とは、柱・棟・梁などの骨組みが完成した段階のことです。  
もともとは、骨組みが完成した区切りの時期に、ここまで無事に工事が進んだことへの感謝と、完成を祈願する儀式でした。



当時は、このような式典には工事関係者が家族と共に招待されるという習わしがあったようです。



上棟式が始まる前でしょうか。  
写っているのは、左から山崎さん、城田さん、栗林さん、広田さん(総持寺)の順です。



持ち上げられているのは、「棟札」です。

棟札とは、建築・修理の記録や記念に建物の屋根裏の棟木にうちつけられたり屋根裏に納められた木札です。

棟札には、建築物の建築者や大工の名前、建築年月日、築造や修理の記録などが書かれています。



上棟式

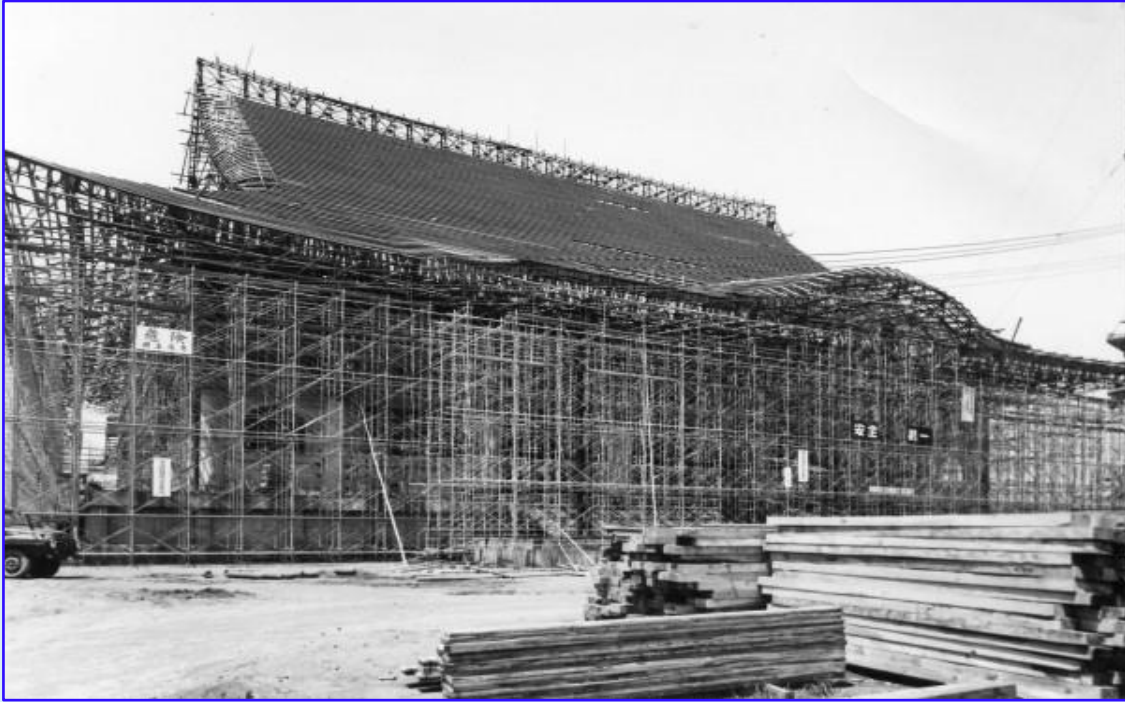


寺社の上棟式なので、多くの来賓や檀家、そして工事関係者が招待され、一大イベントとなっています。



上棟式





この2枚の写真は、上棟式後のものと思われます。  
まだまだ完成とは云えませんが、当社が請け負った工事は無事に完了しました。